

令和5年度 学校関係者評価

<建学の精神>
『誠実・勤勉・努力を基本理念とする』
<学校の教育目標>
社会から必要とされ、信頼される人間を育てる。そのために次の3つを実践する。
<今年度の重要課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人ひとりが学習や資格取得を通じて、人間性を磨きながら成長していることを実感できる機会を設ける ・退学者が前年度を下回るよう、科・コースの枠を超えて学生の支援体制を整える

評価項目	ご意見	改善事項
1 教育理念・目的 人材育成像	信念を持って働くことが大切だと考える。自分がどうしたらいいのかわからないと、社会に出て実践するとなったときに、心と体が繋がっていない。自分で考えられる学生を育てて欲しい。	在校生が卒業生(OB・OG)の話を聞く機会をできるだけ多く設け、社会に出た際の現実について学びを深める。企業の方が卒業生を連れて学校を訪れてくれることも多いので、そういった際には学生と話せる時間を取れるよう調整する。
2 学校運営	教育目標に沿った運営方針、事業計画がされていて良い。情報システム化による業務改善については、先生方が抱える仕事が減るよう、上手に進めていただきたい。	パソコンの画面共有をすることでスクリーン無しで授業ができるようになったり、全館のWifi化で学生がネットを介しての調べもの等をするのが楽になった。印刷の手間や資源節約のために、データで済むものはデータを活用することを進める。
3 教育活動	「授業評価の実施、評価態勢があるか」という項目で内部の評価が低いが、なぜか。	授業評価は取り入れていても、数値化しておらず、部署ごとに機能していない。令和4年度・5年度に実施した自己評価シートの活用や、科ごとに主任を中心とした授業評価のチェック項目を設定し、授業評価の仕組みを整えていく。
4 学修成果	学生一人ひとりの抱える課題や問題はあると思うが、寄り添うことで退学者減員につなげて欲しい。	オープンキャンパスなどで入学前に科の内容をしっかりと伝え、ミスマッチを無くす。
5 学生支援	「学生の健康管理を担う組織体制」の項目の評価が低いが、これはどのようなことか。	心の悩み(精神的健康)について問題を抱える学生が増えているが、それに対する専門的な部署がない。外部の機関とどのように連携していけるのかを模索しながら、学生一人ひとりを支えていく。

評価項目	ご意見	改善事項
6 教育環境	インターンシップについてはどのようになっているのか。	行っている学科とそうでない学科がある。行っている学科は、夏休み等を実施している。長い期間の受入については、企業側で難しい面もある。また、オンラインでの職場体験実施など、学生の希望と合わない形態での実施もあった。特に就職活動期間には、多くの学生が企業見学、職場体験などの機会を得られるよう学校として努めていく。
7 学生の受入れ募集	オープンキャンパスの内容見直しやガイダンスへの積極的な参加など、引き続き適正な募集活動を行って欲しい。	今年度も、内容の見直しやガイダンスへの積極的な参加を引き続き行う。
8 財務	学生数が減少しているとのことだが、新たな計画もあるとのこと、学校の財務基盤の安定化に繋がることを期待する。	学校の財務基盤安定化に繋がるよう努力する。
9 法令等の遵守	個人情報保護に関する意識を高められるよう、努めて欲しい。	各部署で互いに声をかけながら、個人情報への意識を更に高める。
10 社会貢献 地域貢献	商店街や商工会議所等と一緒にやって行う活動があったとのこと、引き続きそのような活動に取り組んで欲しい。	商店街や酒販協会など、外部の方から声をかけていただいている活動や、卒業研究等授業で地域に出て行く活動を、学校として引き続き後押しする。

第2回学校関係者評価委員会 実施日時:令和5年3月27日(水)10:00~11:20

学校関係者評価委員(50音順)

河合 良則 エムケイ商事株式会社 カワイ薬局 代表取締役
佐藤 正 丸堀自治会 副自治会長 (元長野県労働金庫 業務役)
田子 拓也 住友林業株式会社 住宅・建築事業本部 信州支店 営業グループ 上田店 店長

学校職員(オブザーバー)

比田井 美恵 学校法人 上田佐藤学園 上田情報ビジネス専門学校 校長
比田井 和孝 学校法人 上田佐藤学園 上田情報ビジネス専門学校 副校長
山極 学 学校法人 上田佐藤学園 上田情報ビジネス専門学校 教頭
高見澤 なが子 学校法人 上田佐藤学園 上田情報ビジネス専門学校 事務主任